

健診検査センターニュース

No.533 号

運営委員会より

6 月 11 日（木）平成 27 年度第 3 回の運営委員会を開催いたしました。

冒頭、本間所長より、当センターの老朽化が進んでおり、今後建て替えを検討していきたい。政局の混乱を感じる。診療報酬改定に悪い影響を及ぼさないよう注視したいとの挨拶がありました。

1. 特定健診 5 月の実施件数は、下記のとおりでした。

	5 月受診数（前年比）	累 計（前年比）	函館市国保受診率 5 月現在 / 目 標 0.31% / 30.0% 達成率：1.0%
函館市国保	167 人（162 人 3340.0%）	167 人（△25 人 87.0%）	
後期高齢者	42 人（ 40 人 2100.0%）	42 人（ 9 人 127.3%）	
その他	104 人（ 29 人 138.6%）	169 人（ 45 人 136.3%）	
合 計	313 人（231 人 381.7%）	378 人（ 29 人 108.3%）	

実施機関：40 施設／登録機関 105

○ 函館市国保、後期高齢者受診者数の大幅増は、例年 4 月に実施されていた東部保健事務所管内の集団健診が 5 月に実施されたためです。

2. 27 年 4 月の健診検査事業収入は、下記のとおりでした。

	5 月（前年同月比）	27 年度累計（前年比）
一般検査収入	97.5 %	103.4 %
健診収入	79.5 %	88.3 %
合 計	89.8 %	98.4 %

3. 職員の採用 1 名の報告がされました。

《 ちょっと一言 》

医師会健診検査センター運営委員広報担当の小葉松です。6月は1年で一番日が長く、これから夏が来ると思うと気持ちもうきうきしていい季節ですね。

そんな6月の上旬に日本創成会議が発表した提言が話題になってますね。今後10年で東京圏の介護需要が増加し、介護施設や人材が不足するので高齢者の地方移住を提言したものです。幸か不幸か函館は医療介護に余力ありとみなされ移住先の候補地として推薦されていました。実は、団塊の世代が75歳を超えると首都圏の医療介護が不足する(75歳以上の実数が爆発的に増加するため)という指摘はずっと以前からあったので、やっとマスコミでも報道するようになったか、というレベルの話なのですが、多分このニュースには賛否両論かと思います。私の知人の某市役所次長は「函館に必要なのは若者なんだ！これ以上、年寄りを増やすな！」でした。K市長は「東京目線だ。現代版『檜山節考』のような感じがしてならない」と不快感を示したと報道されました。さて、皆様はどう感じましたか？

人口ピラミッドを見れば一目瞭然ですが、函館圏でこの先予測される急激な人口減少の原因は、死亡する高齢者増がメインです。要するに、当地においては、高齢者の実数の増加はそろそろ頭打ちで、年寄りが死んでいくので、人口が減るよ、なのです。医療介護を受けている高齢者が減少すれば当然医療介護で生活していた生産年齢人口の職場も減少してしまうので、私の個人的意見は、首都圏からの高齢者受け入れはどんどん進めるべきだと思います。少なくとも、高齢者が移住すれば年金は居住地に落ちます。函館の人口が減って経済が縮小していくのを指をくわえて見ているくらいなら、首都圏で溢れてくる高齢者に来て頂くのに何の問題があるのでしょうか？ただし、先頭切ってやるのであれば、高齢者にもピンキリありますから、当然ピンの方に来て頂けるような創意工夫は必須です。これについて触れるには、字数が足りないため、来月に続く、とさせていただきます。「ちょっと一言」では済まなくなってしまうかもしれません。

(文責 小葉松洋子)

診療報酬請求に関する審査事項のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きありがとうございます。
診療報酬の請求に関する審査事項につきまして、情報のご案内をいたします。

1. HbA1cの算定について支払基金より通知文あり
糖尿病疑いで連月実施は査定される。
2. TSH、T3、T4、FT3の査定について（再掲）
連月の実施は認められないようである。
FT3は、『甲状腺機能低下症』または『橋本病』の経過観察においては、保険診療上認めない。
3. PCT(プロカルシトニン)定量検査について国保連合会より通知文あり（再掲）
血液培養検査等の実施なしでのPCT検査は認められない。
4. BNP、NT-proBNP、ANPの算定について国保連合会より通知文あり（再掲）
心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定するとされており、
高血圧性心疾患、弁膜症、肺高血圧症、心筋梗塞、心筋症等の基礎疾患がなく、検査(画像等)の施行もされていない症例でのBNP、NT-proBNP、ANPの検査の算定は保険診療上、認めない。
5. FDP定性、Dダイマー定性検査の査定について
DIC疑いで当該検査を画一的に実施していると判断されたようである。段階を踏んで当該検査を実施する必要があるのでは。国保連合会から通知文書あり。
複数の医療機関で同様に凝固検査の査定あり。
6. シスタチンC検査の査定について
適応病名および病状経過付記しているが査定される。査定理由は不明。
7. PSA検査の査定について
PSA検査を3ヶ月毎実施、記載必要事項を付記したが査定される。算定上の要件は満たしている。査定理由は不明。

公益社団法人函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580
E-mail: info@hma-labo.jp